

沢田 昭二

1931年、広島市に生まれる。

13歳のとき爆心地から1,400mの自宅で被爆。迫る火の中で母親を助けることができなかった体験を持つ。

1954年のビキニ事件以後、学生として、また物理学を研究する科学者として核兵器廃絶運動に参加、核兵器廃絶に取り組むパグウォッシュ会議や科学者京都会議などに参加する。

広島大学大学院理学研究科博士課程修了。理学博士。

専門は素粒子の理論的研究。広島大学理学部助手、名古屋大学理学部助教授・教授を経て1995年定年退職。

以後、広島・長崎の原爆放射線線量、原爆被爆者の急性症状発症率から放射性降下物や誘導放射化物質による残留放射能による被曝影響を研究。原爆裁判において証言、また厚労省の認定基準検討会、与党プロジェクトチーム、ヨーロッパ放射線リスク委員会の国際会議などで研究結果を報告。

名古屋大学 名誉教授／原水爆禁止日本協議会 代表理事／愛知県原水協 理事長

非核の政府を求める会 代表世話人／市民と科学者の内部被爆問題研究会 理事長など

著書等

『素粒子の複合模型』（岩波書店、1980年、共著） 同ロシア語翻訳版（ナウカ）／『物理数学』（丸善、1990年）／『核-知る・考える・調べる』（1982年、合同出版、共同執筆）／『SDI-スターウォーズの科学・政治・経済』（1987年、大月書店、共同執筆）／『非核自治体-抗議・学習・連帯』（1987年、汐文社、第三部第四章 全学3年間の議論に基づいて制定した名古屋大学平和憲章制定運動について執筆）／『核兵器のない世界へ』（1995年、かもがわ出版、パグウォッシュ会議が核抑止論から離脱するきっかけの諸論文の監訳）／『量子論にパラドックスはない-量子のイメージ』（1998年、シュプリングァーフェアラーク東京、共訳）／『共同研究-広島・長崎原爆被害の実相』（1999年、新日本出版、共著）／『核兵器はいらない！-知っておきたい基礎知識』（2005年、新日本出版）／『1つの爆弾10の人生』（2007年、新日本出版、監訳）／Cover-up of the effects of internal exposure by residual radiation from the atomic bombing of Hiroshima and Nagasaki; Medicine, Conflict and Survival, 58-74, 23 (2007). 「急性放射線症状発症率から広島原爆被爆者に対する残留放射線影響評価」／『社会医学研究』第29巻1号, 47-62 (2011). (英文)

その他、専門分野の学術論文は英文約100編、専門分野その他の和文論文 約100編。